

『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

とく 度

平成28年5月第4週放送

「どうすればお坊さんになれるのですか」と、時々^{たす}尋ねられることがあります。

「まずは、仏教の教えにふれることから始めてみてください。近所のお寺さんの^{ざぜんかい}坐禅会などに参加してみてくださいはいかがですか」などと答えています。

お寺とご^{えん}縁ができた方で、決心の固い方は、正式にお坊さん ^{そうりよ}つまり僧侶となります。それには^{ししょう}師匠より僧侶となるはじめの^{ぎしき}儀式を受けることとなります。

これを、^え得るの“^{とく}得”に^と温度の“^と度”と書いて「^{とくと}得度」といい、そしてその儀式を「^{とくとしき}得度式」といいます。「^と度」は^{わた}渡ると同じ意味ですので、本来は、生き死にの苦しみのこの世界から、おさ^ととりの世界に渡ることを意味し、それが転じて僧侶になることを表す言葉となっています。

得度式では、^そ師匠に髪を剃り落としていただき、^{ころも}衣、^{けさ}お袈裟、そして^{らいはい}礼拝の際に^{しざく}敷く坐具や食器である^{しやうりょうき}応量器（おうりょうき）など、僧侶が僧侶として生きていくために必要最低限のものをいただきます。さらに、お釈迦さま以来、歴代の師匠たちが伝えてきた、仏さまの弟子として守らなければならない「^{かいほう}戒法」と「^{けちみやく}血脈」とを受けて、正式に僧侶の仲間入りをするのです。

さて、この得度の儀式は「^{しゅつげとくとしき}出家得度式」とも言われます。^{しゅつげ}出家は“家”を“出”ると書き、文字通り家を出て仏の弟子となることを表しています。

私たちは、親より生まれ、親子の縁によって家族をなして育ちます。その親子の縁は時として自分のものとしての意識、そして、我が家族と他の家族とを分けて見ってしまうといった^{しゅうちやく}執着へとなるのです。

僧侶となる際には、まさにそのようなことから離れるために出家をするのです。

ただ、これは、親を捨て、家族を捨てるという意味ではありません。出家によって親子の縁や家族の縁がまったく無くなる訳ではないのです。

出家得度とは、自分の親だけを親とするのではなく、もっと広く多くの人々を親と思い、家族と思い、すべての人々を救おうという^{こころざし}志を立てて、慈悲の心で修行に励むという生き方の出発点なのです。

今日もどこかのお寺で新しいお坊さんが誕生しています。

— 終 —